

能しており、庁舎建設にあたってはこれらの施設を移転することが前提になっています。こちらはまだ具体的な時期や財源等の決定まで至らず、スケジュールが示せない要因の一つになっています。そして、これら施設を稼働させたまま庁舎などの建設に入るとはかなり難しく、ましてや複合化になるとさらに様々な条件を精査する必要がありますが、報告書には、法的技術的な確認等を経なければ実現可能とは言えず、それには専門家の知見が必要と述べられています。

## 現実には、6施設109億円以上の経費が

今回の報告書の経費試算には平成23年の建築単価（行政施設で40万円/㎡）が適用されており、平成24年度秋以降から建設物価や労務単価が上昇傾向に入っています。示された109億円という数字にはこの上昇傾向が反映されておらず、実勢単価とのかい離が見込まれると報告

書でも述べられています。かつて稲葉前市長が庁舎の建設凍結を提案し、第二庁舎の買取を提案したのは、こうした社会背景がありました。結局、109億円でさえ、かなり低めに見た現実的でない数字なのです。

## 「先送りの市政」そのもの、この指摘

選挙当時の西岡市長の当時の市政に対する分析は、「先送り・その場しのぎ」というもので、自らのスローガンは「先取り・未来づくりへ」というものでした。しかし、最終報告書が出た今、かえって先行きが不透明になり、見えていた新福祉会館の建設さえ見えなくなってしまう。議会からは庁舎問題に関し、まさに先送りの市政そのものではとの厳しい指摘がされました。

公約の検証も異例なことではありますが、公約の検証を職員に命じた西岡市長は、その際選挙時の資料を示すこともな

かったことも明らかになり、また最終報告書が議会に示されたとき、6施設複合化や最終報告書への自身の見解を示すこともありませんでした。ただししっかりと取り組むと述べただけだったのです。

## 専門家の採用、市民検討委員会設置への疑問

予想以上の財源が必要になることが明確となり、さらに高度な知識を有する専門家の支援が必要と報告書にはあり、議会には市民検討委員会の設置を求める声もありますが、西岡市長の公約の根拠に大きな疑問が出てきた以上、方針が定まらない現状のまま経費をかけて次のステップに進むのか、十分な根拠に基づく検討が必要と考えます。このままでは市民への白紙委任にしかならず混乱を招きかねません。さらに経費の無駄遣いと指摘される可能性があるのです。

## 西岡市長、突然の「ゼロベース」発言

6施設複合化は西岡市長の選挙時の公約であり、当選後その検証に入ったためか、この問題に関し、公約への思いも見解も述べることはありませんでしたが、9月議会最終日の10月4日には、最終報告書に対する議会各会派からの指摘に答えるように市長報告を行いました。その



現在蛇の目跡地はリサイクルの拠点と公園として活用

中で、新庁舎の建設に当たっては「ゼロベースで見直すことを決断し」と述べ、議員との質疑が行われました。「ゼロベース」の内容を問われ、蛇の目跡地に新庁舎を建設することを表明しましたが、これは稲葉前市長時代からの方針と何ら変化はありません。しかし、西岡市長は選挙公報で「6施設複合化」を言っており、公約の撤回とも言える事態となっています。

新福祉会館や庁舎問題の成り行きを多くの市民が心配していますが、市の方針は1年かけて迷走のすえ元に戻り、なおかつ先行き不透明になっています。西岡市長は市民への説明責任を果たすべきでしょう。

## 「各会派から厳しい意見が続出」

「6施設複合化は単なる空想に過ぎなかった」  
「時間を無駄に費やした市長の責任は大きい」  
「最終報告書とは到底言えない」  
「詐欺同然との市民の声」など、など……